

●ブログ「古田史学の継承のために」議論の記録7

2017年7月12日(水)

●磐井の乱を考える(川瀬さん)

川瀬さん

●磐井の乱を考える

川瀬健一

磐井の乱について古田さんは、最初は正しくは継体の反乱だとして、近畿天皇家が九州王朝に攻め込んで、その天皇と皇太子を殺した事件だとした(『失われた九州王朝』1973年朝日新聞社)。しかし、九州にそうした他王朝による征服と見られる痕跡が考古学的にもみられないことや、九州年号研究が進展した結果磐井の死のところで年号は断絶していないこと、さらに「筑後風土記」の記事は「今、八女地方には手足が欠けるなどの障害を負った人が多い」との証言があることから、磐井の墓の石人らを破壊したのは、7世紀末から8世紀と見られること。これらの証拠に基づいて、この事件はそもそもなかった、書紀編者の造作だとその見解を変えた(『古代に真実を求めて』第8集。2006年。明石書店の講演記録「磐井の乱はなかった」)。

またその後古田史学の会の正木さんは、この事件を、本来は九州王朝内における近江毛野臣の悪行に対する討滅事件記事を、年次も人も書き換えて書紀編者が盗用したものと断定した(「磐井の冤罪」I~IV。「古田史学会報」106~110。2011年~2012年)。

これらの論考を読んでも、そもそも『日本書紀』をいかに解読するかの方法論が確立されていなかったのではないかと思われ、古田さんも正木さんもどちらも、結論は異なっても、書紀記事の恣意的解釈に陥っていたと思われる。

ここではそうした先行研究の結論にはとらわれず、それらとは別に、筆者自身がみつけた解読法にそって、なるべく書紀の記述を改変しない形で読み解いてみた成果を公開する。

●磐井の乱を考える(PDF版)

<http://kawa-k.vis.ne.jp/2017711iwai.pdf>

2017年7月12日(水)

コメント

しばらく放置してしまっていて申し訳ございません。

実は私も長年仲哀～継体・欽明あたりのことはとても気になっていろいろ調べたり考察したりして自分なりの見解があるのですが、なかなか時間が取れず応答するだけの文章化が出来ません。

長いこと放置状態になっていることが気になりとりあえずコメントしました。

また難波長柄豊崎宮の件も気になっているのですが、私は大下さんの説に近く、豊中の豊島・豊津あたりではないかと考えています。

東淀川の大願寺には、古代の長柄橋の橋柱を用いてつくったという地藏尊や橋柱の残木等を寺宝としているとのことですので、近々訪問してみたいと思っています。

投稿： 佐藤浩史（ツォータン） | 2017年7月25日（火）00時06分

佐藤浩史（ツォータン）さんへ

長い間コメントができなかったことを気にしてくださりありがとうございます。

まずは私が提案した書紀記事の解読方法を試してみてください。この方法を使うと、書紀編者がどう書紀を作るときに九州王朝の史書などの一級史料を盗用したり改竄したりしたのかがよくわかりますよ。

すくなくとも書紀の天智紀まではこの方法で解読できます。

問題は天武紀と持統紀。

ここでははっきりと天武・持統は天皇として扱われています。彼らの言動とはっきり読める箇所でも主語が省略され天皇・天子にしか使わない語が使用されていますから。

ただし引用されている詔には、九州王朝の物もあるように思います。それも同時代のものではなくて、過去の時代のものが。

ここは時代状況を勘案して読み込んでみるしかないでしょう。

したがって気になさっている仲哀～継体・欽明のところを、私が提案した方法で読んでみてください。そして今問題の孝徳紀も。

きっと驚くべき結果が出てくると思います。

投稿： 川瀬健一 | 2017年7月27日（木）13時54分

佐藤浩史（ツォータン）へ追伸

一つ言い忘れました。

私が見つけた書紀解読法を使うには、現代語訳ではだめで、漢文の書紀原文を使うしかありません。

ネット上にとっても便利なサイトがあります。日本書紀全文検索のサイトです。

アドレスは、 http://www.seisaku.bz/shoki_index.html

ここから全文を検索することもできますし、各巻の原文を表示し、その巻ごとの単語検索もできます。

あと書紀原文を読み解きには、なるべく詳しい漢和辞典があると便利です。

以上補足です。

投稿：川瀬健一 | 2017年7月27日(木) 14時19分